

開学50周年を迎えて、 未来へ思いをつなぐ！



福岡女子短期大学長 中川 伸也

福岡女子短期大学は、1966年に風早の丘で歩みを開始し、本年で開学50周年を迎えることになりました。その間、多くの皆さまに支えられて太宰府の地で成長を続けることができました。本学へのご理解、ご支援をいただきました方々に心より感謝申し上げます。

さて、1964年8月に九州学園理事長釜瀬富士雄は女子短期大学の設立を決意されました。その1か月後には、太宰府天満宮西高辻信貞宮司に紹介された現在の校地である風早の丘を視察されています。釜瀬理事長が目にしたのは、生い茂る雑木林や進入道路の未整備という丘陵地でした。しかし、2回の現地視察でこの地こそが本学が開校すべき土地であることを確信しています。この後、素早い決断と強い実行力により、短期大学の設立を決意してわずか20か月後の1966年4月に、九州学園福岡女子短期大学が開学することになりました。さらに、開学にあたり林禎二郎氏を学監として迎え本学教育の事実上の責任者としました。林学監は、釜瀬理事長の本学設立の理念を受けとめ、当時としては極めて斬新な教育内容を提案し本学教育に取組むことになりました。

周年行事は、本学教育を担われた方々へ敬意を表し、本学が創り出した伝統・文化・風土を再点検し、これからの本学の未来への歩みを確固としたものにする機会でもあります。開学期に釜瀬学長と林学監が目指された教育こそが本学教育の原点であり、現在の私たちが今こそ学ぶべきことだと考えています。

本学の歴史を振り返ってみますと50年の歩みは、平坦なものではありませんでした。社会・時代の大きな変化を受けて、本学教育は幾多の変遷をたどっています。現在においては、18歳人口の減少、四年制大学及び専門学校への進学率の増加等、本学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

本学がこれからの歩みを確固としたものにするためには、本学の根幹となる教育観・教育哲学を踏まえて、時代の変化をしっかり受けとめ、時代に応じた教育を示すことが必要だと考えています。

釜瀬学長と林学監が本学教育において最も大切にしたのは「人間教育」です。この視点こそ、本学教育50年間を貫く精神であり、どんな時代になっても教育の本質を示すものでもあります。これから未来を目指す本学には、「人間教育」を踏まえて、時代の変化に敏感に、そして「素早い決断と強い実行力」を持って、対応していくことが求められています。

本学は、太宰府と共に成長した大学であり、地域に支えられ、地域と共に生きる大学として、未来へと着実な一歩を進めたいと考えています。